

食を取り巻く未来と環境を食科学からデザインする

～食を通じて健康に育ち、老いる～

環境人間学部 先端食科学研究センター (RIFNS)

教授 (RIFNS センター長) ^{かとうようじ} ○加藤陽二

キーワード

先端食科学研究センター、先端基礎研究、海外連携、地域連携、県立大ブランド、食品機能性、健康・食生活評価

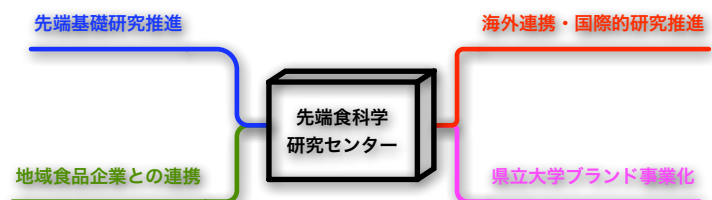
研究概要

先端食科学研究センター

県立大学環境人間学部に、2013年より先端食科学研究センターが設置され、16名の教員（アドバイザー含む）が兼務している。センターのミッションとして、基礎・応用研究の推進、海外・地域連携（地元企業からの技術相談含む）、及び、県立大学ブランドの創製を進めている。地（知）の拠点整備事業（COC事業）の産学公連携系プロジェクトの中核機関にもなっている。高校生が大学を訪問して講演会、実験体験、キャンパス見学、大学生との交流などを行うオープンサイエンスラボも実施しており、また食未来エクステンション講座もセンターの関連事業として5年間実施し、聴講されている一般の方の満足度は高い。



県立大学ブランドとして創製した日本酒「う米ぜ！」は販売2年目となり好評である。また、酒粕の機能性にも着目しており、「う米ぜ！」の酒粕を使った商品開発を高大連携として姫路菓子組合等とも協力しながら進めている。



アピールポイント

先端食科学研究センターは、ひめじぐるめらんど（食のイベント）や産学連携関連のイベントへの出展など、大学広報活動に大きく貢献している。また姫路市などとの連携や、いくつかの企業からの技術相談なども請け負っている。多くの兼務教員によりカバーしている食・栄養・健康に関する専門分野は広く、高い問題解決能力を有する。例えば、食文化に関する研究、災害時の食支援、食事調査に関する研究、疾病の機構解明、食品の加工や嗜好性に関する研究、ビタミンや食品素材の機能、未利用資源の活用、食品偽装を見破る成分分析に関する研究等も進めている。2016年度から、「機能性食品部門」と「健康・食生活評価部門」に分け、さらなる「見える化」を推進している。